



令和元年度

ボランティア活動推進校およびボランティア団体実践報告会

2月14日(金)に宜野湾市社会福祉協議会において、ボランティア活動推進校およびボランティア団体の実践報告会が行われました。

報告会は、ボランティア活動推進校7校とボランティア団体12団体の1年間の活動実践について、児童生徒および団体の会員自らが活動報告する機会を通して、各学校、団体の自信となり更なるステップアップにつなげる場づくりを目的としています。

今回は、はごろも小学校、沖縄カトリック中学・高等学校、地域活動支援センターはぴわんの皆さんが代表して報告を行いました。



この機会を通して、福祉について学びました。5年生になったら、地域のボランティアに参加したいです。



左から、小渡凛さん、山里光希さん、下地緋菜花さん(4年生)

これからも沢山のボランティア活動に参加して、他者と関わり、助け合えるように成長していきたいです。



▲玉城 瑛太郎さん(高1年生)

「誰かに迷惑をかけないように」より「誰かに必要とされる力になれるように」を大事に。いろいろな人がつながることを目的に、はぴわん食堂を実施。昨年の8月には、4周年感謝祭を開催しました。



▲地域活動支援センター はぴわん 兼 渡 克弥さん(施設長)

『伝えよう』『広げよう』『深めよう』ボランティアの輪



▲土楼の内装



▲廈門園林植物園

〈世界遺産「福建の土楼」〉
土楼とは、福建省の南西部に分布する伝統的な家屋です。円形または方形の土壁で囲まれた集合住宅で、大きなものでは200人以上の部屋をもちます。11月に留学生30名ほど

〈佐世保高専の方々と交流〉
10月中旬から2週間ほど佐世保高専の方々が研修で廈門理工学院にいられていました。少し離れたデパートや廈門園林植物園、カラオケなど出かける機会が増えてとても楽しく過ごしました。カラオケも日本ではあまりみかけないような内装であったり新発見もあり刺激になりました。新たな出会いはすぐ嬉しく、いつか一緒に廈門に遊びに行くことを約束し、これからの楽しみが広がりました。繋がりをもたせてくれた日本語学科の生徒にはとても感謝しています。



▲佐世保高専の方々の歓送会



▲福建土楼研修

〈新型コロナウイルスの影響で…〉
廈門理工学院は1月中旬から冬休みが始まり、2月24日から授業開始の予定でしたが、コロナウイルスの影響で延期になり、私は現在、沖縄で待機しています。理工学院の友人たちがとても心配です。少しでも早く収束に近づくことを願っています。
6カ月間で培った中国語を忘れることがないよう、沖縄にいる間も勉強に励んでいきますので、見守っていただければと思います。

で1泊2日の研修があり、土楼の外観、内観を見学し、そこに住む方々と交流しました。入り口は少なくとも小さいのですが、一歩中に入ると外観からは想像もつかないほどの広さで感動しました。世界遺産ではありませんが、不慣れた場所であり、交通手段が限られていることから、海外から訪れている旅行者は多くないように感じました。急激に変貌しつつある中国の中で、世界遺産登録を受けながらこれほどゆっくりと観光地化している場所は珍しいと思いました。ぜひ、皆さんにも訪れてほしい場所の一つです。

留学記 ニイハオ!

アモイ 中国廈門市 その2



第18期 海外留学生 末吉 りんか